

学校だより

熱 砂

<発行>

令和4年9月9日

発行責任者：校長

和田 政男

2学期の学校行事は・・・

熱沙祭スローガン「気炎万丈」～ ドバイの熱砂よりも熱く ～

2学期が始まり3週間ほどが経過しました。コロナ感染の報告が少しありますが、落ち着いた学校生活を展開しております。KHDA（ドバイ教育局）やDHA（ドバイ保健局）が示す新型コロナ感染プロトコルには変更がなく、引き続き保護者が自由に校舎内に立ち入ることは禁止されておりますが、事前に学校行事を届け出ることで、ほとんどの場合で保護者の行事参観が可能になるようです。

2学期は、熱沙祭（10/15 土）、学校参観（10/29 土）がありますが、どちらもKHDAに届出を行い、保護者参観の許可を得ました。密を避けるため、学年ブロックごとの保護者入れ替え制を計画しておりますが、3年ぶりに観客を入れての熱沙祭が開催できますし、公開時間の制限を設けますが、授業参観も行うことが出来そうです。具体的な事については、行事が近づきましたら改めてご案内を差し上げます。

児童・生徒の熱沙祭実行委員会では、今年度の熱沙祭スローガンを表題のように決め、各学年では劇の台本も決まり、配役を決めるなどの準備を進めているところです。

シルクプロジェクト始動

昨年まで取り組んでいたシルクプロジェクトの第二弾が始動しました。

シルクプロジェクトは、日本の養蚕業、シルク産業の衰退、消滅を防ごうとする取り組み。子どもたちが蚕を育て、シルクの生産を体験することで、飼育の学習、他校との協力、産業の学習等、様々な学習効果を狙っているが、諸外国に日本のシルクを紹介しようとする試みです。

昨年までの3年間で、ドバイ日本人学校の子ども達始め、十数校の幼・小・中・高校が関わって生産したシルクから、UAE 国旗をモチーフにしたスカーフ、UAE と日本の国旗の小旗を作り、UAE オリンピック選手団に寄贈。東京オリンピックの開会式ではUAE のオリンピック選手・役員団がそれを身につけて入場行進をしました。

今年も、東京オリンピックのレガシーを2年後のパリオリンピックに繋げようと、シルクプロジェクトの第二弾が始まりました。今年からは東北大学工学部の「セルロース・ナノ・ファイバーを餌と一緒に蚕に食べさせることで、シルクの強度を上げる」という研究とも関連を持った取り組みとなります。

9/4に卵から孵化したばかりの蚕、100頭が学校に到着。日本人幼稚園とG1, G3, 中学部の理科で、それぞれ25頭ずつグループ分けして蚕を育てます。

日本と違い冬でも温暖なドバイでは、冬の飼育も可能ですので、今後飼育の頭数が増えることも予想されます。その際には、全校に飼育の希望者を募る予定です。

↓ 熱沙祭スローガンを寸劇で紹介する実行委員



集会活動・交流活動・校外学習・作品展

2学期が始まって、集会活動も活発に行われています。児童・生徒の代表委員会や各委員会、各学年が中心になって、えがおの広場や小学部集会、スポーツ交流会などが行われました。

校外学習や外部講師による授業なども各学年で活発に行われており、学習の広がりや深い学びに繋がることを期待しております。

校内には、美術や図工、EC やアラビックの作品や学習成果物もたくさん掲示されております。

また Teams 上では、「児童・生徒の夏休み作品展」もご覧になれるようになっておりますので是非ご覧ください。



↑ 校内を飾る児童・生徒作品



← 小学部集会、「爆弾ゲーム」のひとコマ